

戦争遺構保存し「防空壕きくらげ」を特産化。

活動の経緯

2013年に、川崎市で購入した森林に防空壕が存在。地域の年配者に話を聞き、終戦一年前、学童疎開中の児童を避難させるため日本軍が掘ったものと判明。処分迷ったが、中に入ると戦争時の恐怖などが伝わってきて、保存を決意して補修し、有効活用の為、希少な「国産キクラゲ」の生産を開始。

活動の概要

防空壕跡でのキクラゲ栽培に取り組み、平和教育と共に特産化し持続可能な農業として次世代に繋げる。



発見時の防空壕（縦2m横3m奥行13m）



防空壕内でのキクラゲ栽培

活動の成果、主な実績等

- 偶然発見した太平洋戦争当時の防空壕を補修・保存、小学生などの平和教育として見学者を受入れ。
- 防空壕の有効活用として、「キクラゲ」の栽培に着手。本来、夏場のみの生産可能なものを、本業である発熱ヒーターを利用して通年栽培に成功。平和への願いを込めて「防空壕きくらげ」と命名し農産物直売所で販売したところ、テレビ・新聞等でも取り上げられる。現在は、川崎市の特産品として認知され、市のふるさと納税返礼品にも選定。
- コンクリートを利用して、防空壕内の環境を再現したキクラゲ栽培システムを開発し令和2年から販売。現在、全国3カ所で運用が開始され、約5%と低い国産シェアの向上に貢献。